

オーダーメイドなどを検討することだったが、企業誘致のための土地を確保しておくことについて町長の考えを聞きたい。

A. 鶴庭工業用地の南側の池は調整池と呼ばれるもので、開発の段階でつくったものをその後も残さないといけない決まりになっており、池のままにしておく必要がある。

企業誘致のための工業用地については、財政の問題などもあってオーダーメイド方式を検討しているが、これからも本気で誘致活動に取り組んでいくことに変わりはない。

Q. 新たに立地が決まった2社によってどのくらいの新規雇用が生まれたのか。

また地元雇用の状況はどうなっているのか。

A. 2社で15人ほどの新規雇用が行われるとのこと。なお今後も雇用は増やしていくとの話を聞いている。

地元からは、中途採用に

加えて小野高校からの新卒採用も行われているとのことである。



■教育

Q. 教育施設を整備して優秀な子供が育つても、みんな町を出て行ってしまおうという問題があると思うが、これについてはどう考えているのか。

A. 優秀な子供を地元に残すには、優秀な人材が働く場を確保するのが大前提になるが、それ以外にも、地元を大事に思う気持ちも育てることなども大事なかもしれないと最近考えるようになった。このことについては、来年度策定する地方版総合戦略において検討していきたい。

Q. 小中学校では全国的な試験が行われていると思うが、小野町の水準はどのくらいなのか。教育水準を上げれば周辺からの人口流入にもつながると思う。

A. 学力状況調査(国語・算数(数学))の結果を見ると、小学生については、知識を問う問題は全国平均よりも少し良いが、知識の活用を問う問題の成績は全国平均よりも少し低い(特に図形)。中学生については、両方とも全国平均を下回っており、特に国語の基本的な読み取りの部分が弱い。こういった傾向を把握し、小学校と中学校の間の連携を図るつなぎ教育に取り組んでいる。

先進地の例では、知識の活用については家庭の学



習環境も大きく影響すると言われていることから、学校・家庭・地域の努力が学力向上につながると考える。

■除染関係

Q. 町内各地に仮置場が整備されてきているが、仮置きしたものを中間貯蔵施設まで運びきるにはどのくらいかかるのか。

A. 新聞などでも報道されているとおり、試験輸送が平成27年度から始まるとされているが、中間貯蔵施設のための用地交渉が進んでいないのが現状である。無事に建設されたとしても、県内の各市町村から次々と搬入が行われることが予想されるので、小野町の分の搬入がいつ終わるかは予想できない。

■病院

Q. 公立病院の常勤医師が2人のみのため、救急医療体制が未整備である。医師確保は、県と医大への陳情だけで



は難しいのではないかと。ほかの病院との連携模案など、改善すべき最重要課題として取り組んでほしい。

A. 私も個人的に医療連携は非常に重要だと考えている。実際に、いくつかの病院からは、必要があれば協力していきたいとお話をいただいているところ。また、ほかの地域の病院では、県立医大だけでなく、首都圏の私大などと連携して非常勤医をそこから招くなどの取り組みを行っているということがあるので、参考にしていきたい。

医師不足については、ただ声を上げるだけではなく、相応のお金を出すなどきちんとした雇用環境を整えたい。病院は企業団として独立した組織となってい